

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071501086
法人名	社会福祉法人 天光会
事業所名	天光園 グループホーム
所在地	福岡県大牟田市大字宮崎1710番地3 電話 0944-58-3035

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成21年12月12日	評価確定日	平成22年1月6日

【情報提供項目より】(平成 21 年 11 月 30 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 5 月 1 日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 人, 常勤換算 8 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 1 階建ての 1 階 ~ 階部分
------	--------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	16,500円 水道光熱費等
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	230 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 円

(4) 利用者の概要(11月30日現在)

登録人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2	要介護2	1
要介護3	5	要介護4	1
要介護5		要支援2	
年齢	平均 87.4 歳	最低 76 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	杉循環器内科病院 永田整形外科病院 曾我病院 太田歯科病院 立石医院 安藤皮膚科医院 塩谷眼科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

天光園グループホームは、市街から少し離れた高台に位置し、介護老人福祉施設を中心に多様な介護サービスを提供している母体法人の入り口にあるモダンな建築の1ユニットのホームである。理念の5カ条である「1. 地域との交流を深め、外に開かれた暮らし2. どんな時でも誇りや尊厳のある暮らし3. みんなで仲良く楽しめる暮らし4. 自分でやれた達成感の喜び5. ゆったりとした穏やかな安らぎのある暮らし」の具現化に努めている。入居者は、従来からの趣味の詩吟の会を続けたり、居室で住職の月詣りをお願いしたり、地域の清掃活動で空き缶拾いに参加したり、食事の準備を職員と共に行い、緋で作成したタペストリーにクリスマスの飾りつけをするなど、それぞれの得意分野を生かしながら、お互いを気遣い生きいきと生活している。ホームに隣接する地域交流センターでは介護予防の筋力アップ体操や認知症の講演会が開催され、定期的に開催されつつある運営推進会議に参加した地域住民の提案で地域との交流を深め、来年の菊作りを一緒にとの申し入れを検討している。そして、地域密着型サービスの定着やサービスの向上を目指し市主催の「SOS徘徊ネットワーク」や「あんしん介護相談員意見会」「運営推進会議意見交換会」等に参加している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 全職員で前回外部評価結果に沿って、改善の優先順位を決め取り組んでいる。運営推進会議の定期的な開催や地域権利擁護事業や人権学習の勉強会を企画している。入居者家族には運営推進会議に順番で出席をお願いしたり、年1回の家族が交流できる機会を設けるなど家族の意見がサービスに反映できる機会を設けている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回は自己評価を全職員で取り組み、業務の振り返りと今後のサービスへの取り組みの確認になっている。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 2ヵ月毎に開催することが定着し議事録が整備されている。隣接する地域交流センターで、今年度から参加をお願いした地域住民代表2名から地域との交流について活発な意見が出され、入居者の地域との付き合いが広まった。家族の参加は毎回交代でお願いしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 家族の訪問が多いので、その都度近況を報告している。法人で年2回発行している「天光園たより」にホームでの行事や暮らしぶりを掲載し、全家族へ送付している。かかりつけ医への受診結果は勤務日誌、介護記録に記載され、家族には電話で報告している。年1回の定期健康診断を支援し、預かり金は金銭出納帳を整備し、家族に確認のサインをいただいている。成年後見制度のポスターをホーム内に掲示し、家族に必要な時説明できるように説明書の用意をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは2つの自治会の間に開設していることから、自治会に加入していないが、高齢化が進む団地内の行事への参加や菊花展を主催する近隣の方からは来年は菊作りを一緒にとの提案があった。地域の清掃活動に参加したり、法人の夏祭りには広く地域に呼びかけ多数の参加があったり、ボランティア参加した学生が立ち寄るようになるなど地域との交流が広がっている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規程に地域密着型サービスの方針を明記し、ホーム独自の理念をわかりやすく5カ条にまとめて、パンフレットにホームの概要と共に紹介している。理念は玄関ホール、廊下など入居者、家族、来訪者などの目に留まりやすい場所に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、毎日の朝礼時やことあるごとに職員と理念を活かす介護について話し合っている。職員は理念を理解し、理念に沿ったケアが実践されているか確認し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは2つの自治会の間に開設していることから、自治会に加入していないが、高齢化が進む団地内の行事への参加や菊花展を主催する近隣の方からは来年は菊作りを一緒にとの提案があった。地域の清掃活動に参加したり、法人の夏祭りには広く地域に呼びかけ多数の参加があったり、ボランティア参加した学生が立ち寄るようになるなど地域との交流が広がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で前回外部評価結果に沿って改善の優先順位を決め、運営推進会議の定期的な開催や権利擁護の勉強会企画等、具体的に改善に取り組んでいる。今回は自己評価を全職員で取り組み、業務の振り返りと今後のサービスへの取り組みの確認になっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣接する地域交流センターで、2ヵ月毎に開催することが定着し議事録が整備されている。今年度から参加をお願いした地域住民代表2名から地域との交流について活発な意見が出され、入居者の地域との付き合いが広まった。家族の参加は毎回交代でお願いしている。	○	運営推進会議の円滑な運営のため、新規委員に守秘義務の同意書や委任状の交付をお願いします。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や地域包括センター主催が主催する研修会や連絡会に参加し、情報や意見交換を行っている。市が企画した「認知症勉強会」の事務局として参加したり、「安心介護相談員」を毎月受け入れている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度のポスターをホーム内に掲示し、家族に必要時説明できるように説明書の用意をしている。職員の制度に対する理解を深めるため、社会労務士を講師に来春、勉強会を計画している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問が多いので、その都度近況を報告している。法人で年2回発行している「天光園たより」にホームでの行事や暮らしぶりを掲載し、全家族へ送付している。かかりつけ医への受診結果は勤務日誌、介護記録に記載され、家族には電話で報告している。年1回の定期健康診断を支援し、預かり金は金銭出納帳を整備し、家族に確認のサインをいただいている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。クリスマス会の開催時に家族同士の交流の場を提供している。高齢の家族から、専門医受診への同伴依頼や不安感が強い家族から、対応について相談があるなど、気軽に管理者や職員に話ができる雰囲気がある。相談等は、その都度話し合い対応している。運営推進会議で家族に入居者がスーパーで居なくなった経験を話していただき、近隣へ協力をお願いしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は認知症の特性、馴染みの関係づくりの重要性について理解している。人事考課の運用があり、母体法人内で職員異動はある。職員の異動時には、入居者が全員揃っているときに「皆さん、新しい方が来られました。ホームの先輩として、教えて下さい」と紹介し、入居者との関係づくりを工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	ハローワークを通じて職員を募集している。母体法人で採用され、本人の希望を考慮して配属がある。現在の職員は30歳から60歳代と幅広い年齢構成である。年2回人事考課が実施され、職員の能力開発や能力を発揮できる取り組みでは、高齢者雇用で70歳代まで勤務した職員がいた。昼休みは時間差で取るなどの工夫をしている。職員の定期健康診断は年1回、夜勤者は年2回実施されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	ミーティングで入居者の人権について、話し合っているが、社会労務士を講師として、人権教育の学習会を計画している。高齢者虐待防止や身体拘束防止マニュアルを整備し、運営規程に緊急やむを得ず身体拘束を行う場合も明記され、説明と同意書を整備している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画は無いが、研修案内を回覧し、職員の希望や段階に応じて受講している。受講内容は職員間で共有するためにミーティングで報告をしている。職員の悩みや相談には先輩職員や管理者が応じている。	○	職員の段階に応じた研修を受講できるように年間の研修計画や新人職員研修マニュアルの整備をお願いします。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大牟田市主催の「SOS徘徊ネットワーク」や「あんしん介護相談員意見会」「運営推進会議意見交換会」等に参加し、管理者間で意見を交換している。今後は職員の交流等でサービスの向上を考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	介護保険施設や小規模多機能等からの新規入居者3名は、ケアマネジャーとの連携で、入居前にレクレーションや昼食などを体験する機会を設けている。入居当初は、家族の訪問を毎日お願いして、自宅で使い慣れた家具を少しずつ増やすなどの工夫をしたり、職員の顔を覚えてもらい安心して暮してもらえることを念頭に置き接している。入居者の表情が変わり、管理者に頬擦りや職員への感謝のことばがあり、落ち着いた生活をされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者に1対1で対応できることを喜びに介護している。言葉や表情を観察し、対応を変えることで入居者も変わり「家族ではないが身近に自分のことを心配し、身の回りのことをお世話してくれる人がいる」と思い、入居者同士や職員への気遣いの言葉が自然に出る関係づくりがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式でアセスメントを実施し、生活歴や職歴、暮らし方の希望を把握して計画に反映させている。毎月、居室にお寺の住職が来て、月命日の読経を行う入居者もいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員によるミーティングは設定されていない。毎朝の申し送り、介護記録、介護日誌、日々の介護現場での情報を共有して管理者である計画作成担当者が作成している。従来からの趣味の詩吟の会を続けることや、居室で住職の月詣りをお願いしたり、夜間トイレへの誘導で放尿行為を無くすなど個別の介護計画を立案している。担当者会議には家族の参加があり、計画書に本人、家族の署名捺印がある。	○	職員を入居者ごとの担当制にしている利点からも、立案した介護計画を全職員と共有し、職員の意見気づきを参考したチームで作る介護計画をお願いしたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状況により、3カ月毎、6カ月毎の介護計画の見直しがなされている。入居当初や体調の変化でその都度見直しをしている。介護計画書を介護記録に添付し、毎日計画に即したサービスが提供できるよう配慮している。本人や家族に説明して同意を得ている。	○	サービスの提供やモニタリングの記録を工夫し、職員ミーティングで順次モニタリングを行うことを定例化されてはいかでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問美容を利用したパーマや顔剃り等の身だしなみが入居者の楽しみになっている。隣接の母体法人施設の行事や幼稚園児との交流に参加している。家族の高齢化に伴い専門医への受診支援の要望があり、管理者は医療機関の受診同伴に多くの時間をかけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医を確認し、継続して受診できる支援を行っている。ほとんどの入居者が物忘れ外来等認知症専門医を受診している。医療機関との情報交換は口頭で行い、受診結果は介護記録に記入している。家族へは面談時や電話で報告している。	○	医療機関との情報交換、家族への報告等の記録様式の検討をお願いします。
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に運営規程を説明し、緊急おける対応方法や終末期の看取りは不可能であることを説明しているが、記録は無い。	○	入居者の重症化や終末期に対応する指針を定め、早期から本人や家族、かかりつけ医と話し合いの記録を整備していただきたい。重症化に対応できない場合でも、ホームのできる事、できない事を明確にし本人や家族と話し合いを重ねていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する規程や利用目的を明記した書面をホームに掲示している。入居者、家族の同意を得ている。入居に対しては「○○さん」と姓名で呼びかけ、理念である誇りと尊厳のある暮らしを支援している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重要事項説明書には入居者の希望により、年間のレクリエーション等行事予定が明記されている。今年度は筑後柳川へのドライブや弁当持参のお花見等を楽しみ、以前通所していたディサービスへ友達を訪ねたり、裁縫の好きな人が多いため、職員と一緒にクリスマスに向けタペストリーを作成して居間に飾っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや味付け、配膳や食後の食器洗い等を入居者と職員が共に行い、職員も同じテーブルで同じ物を食べながら支援している。誕生日には本人の希望する外食を楽しんだり、「おこわご飯」づくりが上手な入居者にクリスマス会で腕を發揮してもらっている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回の入浴を本人の希望に合わせて支援している。季節の菖蒲湯やゆず湯を楽しむ工夫もある。入浴を拒否される場合は浴室まで声かけで誘導し、「私の当番だから」とお願いして了解を得るなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中で、その人の出来ること、やりたいことを達成感を持ってできるよう支援している。入居者一人ひとりが専用の歌唱集を持って、午後は毎日のように居間で歌っている。最高齢の入居者のオルガン演奏を楽しむこともある。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節毎の行事で外出したり、近隣の方から菊花展へのお誘いがあり、何度も見学に出かけている。地域の行事に参加したり、隣接する介護老人福祉施設の敷地まで一人の散歩を楽しむ入居者もあり、地域の方へのあいさつを兼ねて散歩に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯のため19:30から翌朝7:00まで鍵をかけている。玄関は自動ドアで鈴が付いており、居間、台所、事務所から出入りが見渡せるため外出傾向のある入居者へは気配りで見守りしている。居室は掃き出し窓のため安全対策として夜間のみ2重ロックを使用している。運営推進会議を通じて近隣に見守りや声かけをお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルを作成し、マニュアルの確認を行っている。隣接する母体組織と連携し、今年度の災害訓練は夜勤帯を想定して避難訓練を実施した。ヒヤリハット・転倒事故記録を整備し、法人のリスクマネジメント研修に参加している。消火器は設置されている。備蓄は隣接の母体施設で一括して管理されているが、ホーム独自でも検討する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>母体法人介護保険施設の管理栄養士が作成した献立を参考にして1日1400～1500Kcalの食事を提供している。入居者の体調に合わせてミキサー食、制限食に対応している。入居者の好みや希望を取り入れたメニューで、ほとんど完食されるほど満足してもらっている。食事と水分摂取記録がなされ、体重測定は毎月1回実施している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関のまわりには季節の花やウエルカムボードがおかれ、南側の中庭に面したリビングは対面式の台所があり、食事の準備を一緒にしている。共同作業で作成した緋のタペストリーはクリスマスの飾りつけや炬燵もあり、季節感が感じられる。近隣の方の台所からの訪問もあり、野菜やおやつの差し入れなど近所付き合いが肌で感じられる居間になっている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>中庭を挟んで居間の真向かいに居室があり、共有空間と居室に程良い距離感がある。自宅で使用していた手作りの表札を掛けるなど各居室のドアが個性的に飾られている。入居者、家族には今まで使いなれた馴染みの家具などの使用をすすめ、段々に入居者らしい居室に設えることでホームでの生活に慣れ親しんだという経過もある。</p>		